

JR労働者が働きやすい環境づくりを
社会に寄与する労働運動をつくろう！

東日本ユニオン 仙台地方本部

JR東日本労働組合仙台地方本部 発行責任者：竹嶋公生 編集責任者：竹田浩幸
仙台市宮城野区東六番丁31-2 NTT・電話 221-7375 NTT・FAX221-7509
JR・電話031-3906 JR・FAX 031-3909 PCアドレス：shokichou@eos.ocn.ne.jp

2017春闘方針確認・第4回中央委員会



渡辺委員長挨拶



東日本ユニオン
渡辺委員長

昨年は、自然災害が各地で発生。犠牲者の方にお悔やみと、被害にあわれた方にお見舞いを申し上げます。

36協定問題は、一時、未締結のまま「時季変更権の行使保留」とした中で勤務指定という異常事態となった。その後、何も問題が解決しないま

2月11日、2017春闘方針を主なものとする、ユニオン本部・第4回中央委員会が東京「ホテルラングウツド」にて開催された。
仙台地本からは、佐藤中央委員(新庄運転区)、芦野中央委員(仙台駅)が参加し、佐藤中央委員は、エルダー問題・共闘関係について発言した。
全12地本の中央委員から熱い発言により方針が可決された。
来賓には、交運共済より異例となる坪井理事長が出席。祝辞の最後に、自身が元JR連合会長であった立場でのJR連合問題に触れる場面もあった。



議長
郷(東京地本)

ま3カ月間の協定締結となった。この間の東労組対応での目的に対する「スト権確立」という手段は、スト権を矮小化する行為だ。

JR発足30年を節目に

企業が持続して発展し続けることが不透明な時代。社会から信頼され将来にわたって持続的に発展し続けるための土台として安全・安定輸送を確立させていかなければならない。その為にもこれ

まで鉄道の安全を支えてきた技術や安全文化を継承・新たな構築のための働き方を追求していく。

2017春闘

JR東日本会社は第3四半期決算では、増収増益、過去最高となった。我々は、労働条件を変え得る経営体力は十分にあるとし、労働者に相応しい賃上げを求め、あくまでもベアにこだわり6,000円を要求とし闘う。

春闘を通し職場、地域から多くの仲間が東日本ユニオンに結集し、闘いを組織していただくよう要請する。

組織強化拡大

第4回大会以降3名の組織拡大があった。
JR労働運動の大同団結・一元化という組織方針を掲げる唯一の労働組合として自信と確信を持ち実践し、その先に「共生・公正・創造」という結成理念が実現される。

労働の垣根を超え多くの社員から共感され信頼される労働組合を創造しよう。

JR連合加盟問題について、JR連合が策定した「あるべき労働組合像・労使関係像」から逸脱しているという考えはなく、これまでも共通認識で取り組んできた。基本的方針にその精神が流れていることを明らかにしたい。



退職者の会
佐藤会長

退職者の会結成14年となる。これまで国会前行動、メーデーに共に参加してきた。共通の課題として、年金問題がある。将来的には皆さんも関係してくるものである。一体となって行動していく。



交運共済
坪井理事長

現在の立場上労働問題に触れることはできないとした上で、前職ではJR連合に所属していた。その中で「労働界一元化」という言葉を私も発していた。現在の状況を見れば残念でならない。一つひとつの運動を積み重ねていくことで先が開けていく。着実に一步一步団結し、運動を進めていかれることを願っている。

【来賓】
◎退職者連絡会
佐藤光男会長
◎全国交運共済
坪井理事長
松井東日本本部長

仙台地本
佐藤中央委員発言要旨



佐藤中央委員
(新庄運転区)

エルダー問題について、エルダー問題座談会を開催した。組合員の声や調査から具体的なエルダー就労までのスケジュール不履行、運車と営業のエルダー受入会社の相互間の壁、支社間のエルダー制度利用の困難さが出された。職場環境では、作業ダイヤでは出来ない実作業の実態など、チェック機能を持ったユニオン組合員がエルダー職場に行つて初めて明らかになった。しかしその実態が明らかになつたとしても、私たちが直接当該エルダー先と交渉はできない。エルダー職場での労働条件改善に向けた取組みの連携強化をお願いしたい。労働者の連帯の視点から産別への加入についてこの間、JR連合脱退と共にナショナルセンター連合、交運労協からの離脱を選択した。しかしこれまで積

み重ねてきた地域共闘運動の大切さ、労働者の連帯をこれからのユニオンを引継ぐ若者たちに残さなければならぬその一心で、私たちはユニオン山形県協議会を結成し、昨年10月にオプ加盟ながらも共闘運動の環境を作る事が出来た。

しかし、本来の姿ではないと思う。JR連合への全組合員による再加盟申請は保留のまま、手続き上の脱退だけが認められ、あたかもそれで終わりである空気があることを懸念する。脱退決断時、産別として選択すべきは変化が出来るJR連合以外有り得ないとした本部見解に賛成の立場で今後の方向性を示して頂きたい。

集約 答弁



本部 書記長
生田

本中央委員会は、2017春闘総決起の場として、要求を確認し満額獲得へ向けスタートを切り、ユニオンの組織強化としての成果を全体の物にすることである。

【安全について】社員同士が真剣に議論できる

ことを保障できる企業、職場風土を作ることが必要。安全は闘い無くして作れない。各地本の取組みを共有し合い安全確立へ向け挑戦していく。

2017春闘

賃金の引上げに全力を挙げる。その上で全組合員一行動とし、組織を意識した運動を展開していく。ひとり一人の想いを拡大し力をより大きくしていく。これまでの闘いから今後の闘いについて議論を行っていく。

組織について

組織拡大に於いて、疑問を抱かせる視点を見つけられた。また、業務、職場問題の克服に向けた姿があった。

36協定問題では、組合員と役員の想いが共有出来る事が必要。ユニオンとして締結できる労組へと生長を成し遂げていく。その為に見える運動を行っていく。

JR連合加盟について

再加盟の考えに変わりはない。組織拡大が大きな鍵となる。共に努力し合いたい。

JR30周年の節目に

大同団結に向けて自信と確信を持ち努力し合い、その先に揺るぎない団結が。組合員の利益を守ることを第一に運動することを全体で確認していこう。

大谷さん送別会
山形施設分会



山形施設分会
中央・大谷さん

1月24日、大谷伸一さん退職送別会を山形市内で開催。大谷さんは昨年12月に退職。この間、保線の要として安全輸送、技術継承に尽力しされてきた。

竹嶋分会長からは施設分会で受け継がれている「米沢お鷹ポップ」の退職記念品が和春書記長より贈呈された。通常コシアブラの木で作られるが、施設分会では槐(えんじゅ)の木で作ったお鷹ポップを送り、より価値を高めている。職場で大谷さんが挽く朝のコーヒの香りが無くなるのは寂しい。

1月27日、新庄市内に於いて新春旗開き及び、2月1日付けでテクノ新庄にエルダーとして赴任する佐々木 登志博さんの歓迎会を開催した。仙台地本から竹嶋委員長、佐藤書記長が、山形県協議会からは草なぎ議長が駆け付け連帯を

深めた。当日は、先にエルダーとなった笹さんを始め、OBの大場さん、中西さん、横山さん、岸さんなど元気いっぱい駆けつけてくれた。

江口分会長からは、分会を山形地区連合分会として統一する方向である。それでも新庄のこれまでの絆を継続し、春闘に向けて団結しようと挨拶があった。会場となった「鳥舟」の美味しい焼き鳥の中で、新庄地区分会の旗は確実に開いた。



新庄地区分会
旗開き・佐々木さん歓迎会

行事予定

- 3/4・仙台地本第3回地方委員会・福島コラッセ・13時40分
- 4/29・山形県メーデー
- 5/12・本部ソフトボール大会
- 5/22・仙台地本第3回ゴルフ大会・山形ゴルフクラブ
- 7/8・本部第5回定期大会